



～バンダイこどもアンケートレポート Vol.28

「飼っているペット、飼いたいペット」

環境さえ許せばペットはやっぱり飼いたい！

この調査は雑誌誌上で当社が行っている、アンケート付きプレゼント企画への回答をまとめたものです。保護者を対象としたこどもに関する設問で、月1回の調査を行っています。質問内容は玩具に限定することなく、広い視野からこどもたちの生活に密着した生の声をまとめ、現代のこどもたちの実態をバンダイ流に解きあかしていこうと考えています。

【調査概要】

調査方法：雑誌広告でのアンケート付プレゼント企画によりハガキで募集

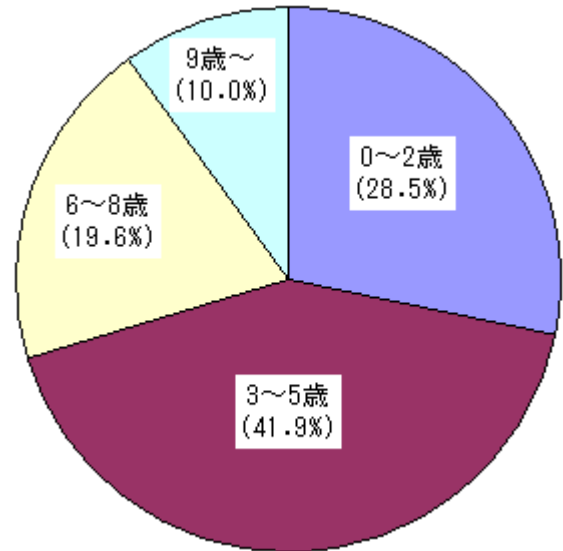
実施時期：1997年7月

質問内容：飼っているペット、飼いたいペット

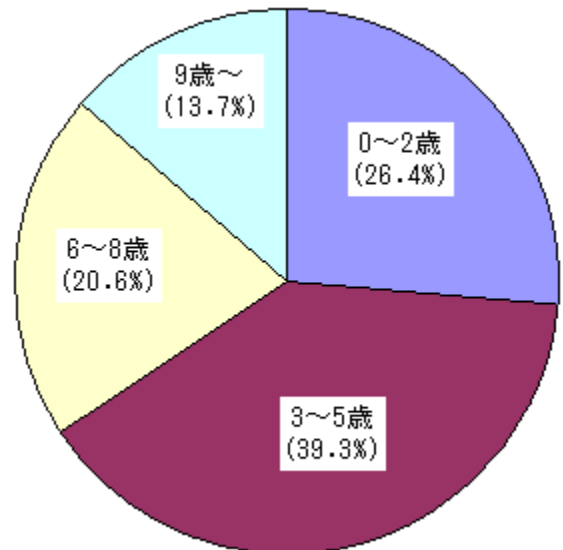
有効回答数：820人

男女総計 820人

★男 児★	
年齢内訳	
0～2歳	119人
3～5歳	175人
6～8歳	82人
9歳～	42人
<hr/>	
計	418人



★女 児★	
年齢内訳	
0～2歳	106人
3～5歳	158人
6～8歳	83人
9歳～	55人
<hr/>	
計	402人



★ 男女総合結果 ☆

★飼っているペット
(644 件中／複数回答含む)

1	犬	38.2%
2	猫	16.2%
3	金魚	13.8%
4	ハムスター	12.7%
5	カメ	7.8%

★飼いたいペット
(462 件中／複数回答含む)

1	犬	47.2%
2	うさぎ	7.4%
3	猫	6.9%
4	ハムスター	5.6%
5	小鳥	2.8%

<アンケート結果より>

★ペットを飼うことで生き物を大事にする気持ちを育てたい

アンケート調査を年齢別で見ると、ペットを飼っていると回答した家庭は0～2歳で50.6%、3～5歳で68.2%、6～8歳で74.5%となった。今年のアンケート調査では現在ペットを飼っている家庭の回答が多いものと推測されるが、年齢があがるにつれてペットを飼う率が高くなっているようだ。これは子ども自身がペットを飼いたがるというのは勿論、親の側でも子どもに生き物を大事にする気持ちや世話をする大変さを知って欲しいからと考えているためのようだ。

★ペットが飼えない一番の理由は住宅事情

ペットを飼っていない家庭で、その理由として一番多かったのはマンションやアパート住まいだからという住宅事情だった。中にはアトピーや喘息のためという回答も見られたが、住宅事情が許せばペットを飼いたいという家庭がほとんどだった。

また実際ペットを飼っていても、ハムスター、うさぎ、金魚など小さい生き物を飼っている家庭では、住宅事情などの問題から、犬や猫が飼えないから代わりに小さくてスキンシップをはかることができる生き物を飼っているという意見も見られた。

★飼うなら犬

飼いたいペットでは犬がダントツの人気となった。特にゴールデンリトリバーなどの大型犬に人気が集まった。飼いたいペットの顔ぶれを見ると、触ることができ、ある程度コミュニケーションをはかることができる生き物が条件となっていることがわかる。

<年齢別結果>

★ 0～2 歳

飼っているペット

(123 件中／複数回答含む)

1	犬	47.3%
2	猫	18.8%
3	金魚	14.4%
4	熱帯魚	7.8%
5	ハムスター	3.3%

飼いたいペット

(152 件中／複数回答含む)

1	犬	49.1%
2	うさぎ	10.4%
3	猫	7.2%
4	小鳥	4.6%
	ハムスター	4.6%

★ 3～5 歳

飼っているペット

(258 件中／複数回答含む)

1	犬	31.8%
2	猫	16.0%
3	金魚	14.6%
4	ハムスター	13.3%
5	カブトムシ	8.7%

飼いたいペット

(182 件中／複数回答含む)

1	犬	44.0%
2	うさぎ	10.4%
3	猫	9.9%
4	ハムスター	6.6%
5	カメ	4.8%

★ 6～8 歳

飼っているペット

(162 件中／複数回答含む)

1	犬	38.1%
2	ハムスター	16.2%
3	金魚	14.4%
4	カメ	12.1%
5	カブトムシ	5.6%

飼いたいペット

(78 件中／複数回答含む)

1	犬	42.4%
2	ハムスター	11.3%
3	うさぎ	7.1%
4	熱帯魚	4.2%
5	猫	3.4%

★ 9 歳～

飼っているペット

(101 件中／複数回答含む)

1	犬	42.7%
2	ハムスター	20.1%
	小鳥	20.1%
4	猫	13.7%
	金魚	13.7%

飼いたいペット

(44 件中／複数回答含む)

1	犬	16.9%
2	ハムスター	6.5%
3	猫	5.2%

※ このアンケートレポートに関して「子ども調査研究所・渡部 尚美」さんから以下のコメントをいただいております。

■飼っているペット、飼いたいペット

飼うかどうかはともかく、こどもは動物に強い関心を持っています。身近な昆虫、ご近所のペット、動物園、水族館、テレビに登場する動物、動物や昆虫の図鑑……。それらは人間に似ている（ごはんを食べる、うんちをする、眠る、歩く etc）けれど、随分違う（大きさ、姿、色、声 etc）のがこどもには不思議で、魅力です。

映画『E. T.』で、少年が宇宙人と指を触れ合わせ、心を通わせたように、こどもたちは動物とコミュニケーションをはかろうとします。前足をあげて立った犬は、こどもの背たけよりも大きいしバウバウいうので、はじめは相当怖いものですが、やさしく撫でてあげると喜んでるのがわかり、少しずつつき合い方もわかってきます。そして、もっともっと仲良くなりたくなって、自分の家で飼いたくなるのでしょう。

異質なもののどうしが試行錯誤をしながら親密になっていくコミュニケーションの過程が、言葉という理性ではなく、体感や表情などの情緒によって進展することが、こどもの感覚に合っているのでしょう。同時に、動物が人間と似て非なる存在であることを知ることで、こどもたちは<人間>という存在をおぼろげながら意識するようになります。つまり、動物への関心は、人間（自分）への関心の裏返しとして自然にこどもたちの心に生じるものなのでしょう。

犬はこどもたち同様、走り回って遊ぶのが大好きな動物ですので、遊び相手として、やんちゃな兄弟として人気になっているのでしょう。一方、猫はこどもが苦手です。マイペースで生きていたい猫にとって、こどもの気まぐれな干渉や一方的なかわいがりしたい願望は迷惑のようで、なかなかこどもの相手をしてくれません。こどもたちのそうした体験が、データにもあらわれているようです。